

みっつの“わ”

R.5. 12月号

No.8

河内長野市立長野小学校
支援人権部発行

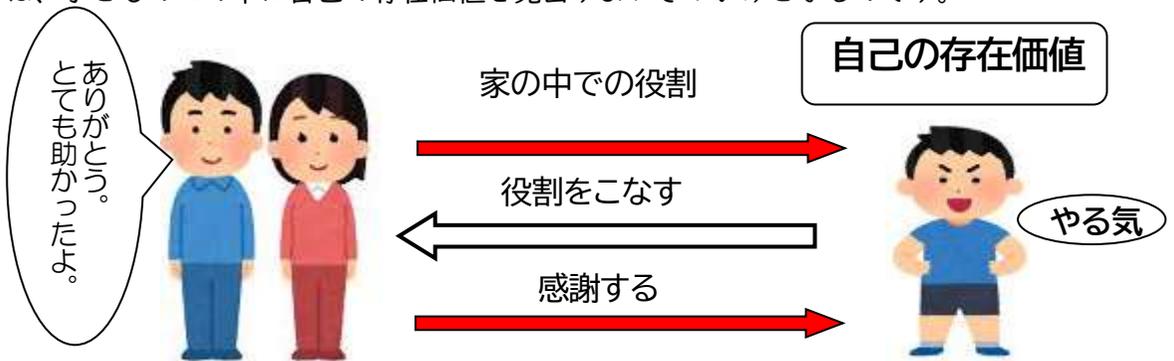
12月であることを忘れてしまうような過ごしやすき日が多かったので、「今年の漢字」をニュースで見たときに、「もうそんな時期か」と驚きました。今年は、皆様にとって、どんな1年だったでしょうか？今年もあと2週間足らずですが、1年を振り返って、来年はどんな年にしたいかを考える機会をもてるといいなと思います。



家事手伝いの大きな意義とは・・・

最近、便利な家電製品や日用品が普及し、家事が楽になったこともあって、子どもに家のことを手伝ってもらわなくてもよしとしている家庭が少なくないようです。しかし、手伝いには、心理学的に子どもの成長を大きく助ける面が認められるのです。

家の中で何らかの役割を与えられ、それをこなすことによって家族から喜ばれるという過程は、子どもの心の中に自己の存在価値を見出すよいきっかけとなるのです。



例えば、障がいのあるお子さんの話ですが、親は長い間「この子は何もできない」と思い込んでいたそうです。しかし、ある日来客時に誰も買い物に出られる者がいなかったため、やむなく、その子に書付を持たせて買い物に行かせたところ、立派に買い物をしてきたというのです。親は「よくやった」と、その子をほめました。すると、それ以来その子は、何もできないどころか、買い物や掃除など、家の手伝いをきちんとするようになったのです。

このように、自分の存在価値を見出すという喜びは、大人が想像する以上に大きく、子どもの意欲を高めてくれます。

また、普段から家の手伝いをたくさん経験させることは、子どもに“気が利く”とはどういうことか教えるよい機会になります。大人がお手本となって、その都度適切なアドバイスをしてあげれば、そのうちに、何も言わなくても、子どもは自分からそれを察して心配りができるようになるはずです。



任せたら見守ることが大切です！

大人から見ると、子どもの仕事ぶりは危なっかしかったり、汚れが残って完璧ではなかったり、自分がしてしまった方がよほど気が楽だし、能率がよいこともあるでしょう。しかし、子どもにとっては「任された」という自覚が大切なのであり、子どもはこの自覚を通して、責任感と自主性を養っていくのです。

責任感

自主性

手を切りそとで心配。でもここで手を出すのはやめましょう。

これから年末の大掃除の時期です。ぜひ、お家で子どもたちと一緒に家事を楽しんでやって、「きれいになって気持ちいいね。」「助かったわ。ありがとう。」などの言葉をたくさんかけてあげてください。そして、日常的にも子どもたちに家の仕事を任せてみてください。

お小遣いの使い方を任せることで・・・

子どもに与えたお小遣いの使い道に関して、つい干渉してしまうことはありませんか？子どもの買って来た物に対して、「そんなつまらない物を買うために、お小遣いをあげているんじゃないありません。」と言ってしまったことはないでしょうか。こうした干渉めいた言葉は口にしない方が賢明です。というのも、子どもが自分なりに判断して買って来た物を、大人の基準でつまらない物と決めつけて否定してしまうと、子どもは大人の言うとおりの物を買えばいいのかと考えてしまうからです。

欲しかった
プラモデル
を買って。
自主性



本来、お小遣いとはその使い道を子どもに任せただけのもので、つまり、お小遣いを与えるのは、子どもの自主性を育てる一つのチャンスなのですが、そこに干渉すると、チャンスを生かすどころか、大人の言うとおりにしか行動できない、主体性のない子になってしまいかねません。原則的にお小遣いの使い方は子どもに任せるというのが、子どもの自立への大きなステップになるのです。

一方、お小遣いでは買えないような高価な物をねだる子どもを見て、「仕方がないわね」と、それを買ってあげる光景も見ますが、安易に子どもが欲しがると買って与えてしまうと、子どもは「頼めば買ってもらえる」と思い、自分の欲求を我慢する努力をしなくなってしまいます。そして、欲しい物が手に入らないときには不満を感じ、ひいては反抗するようになってしまいます。もし、自分のお小遣いでは手に届かないものを欲しがって、ねだるようなことがあったら、「次のお小遣いの日が来るまでは駄目よ」と我慢させることが大切です。我慢させることは、子どもに忍耐力を植えつける妙薬なのです。

冬休み、お年玉をもらう子どもたちもいるかと思いますが、お金の大切さを知り、計画的に使うようにしてほしいと思います。

お金が貯まるまで我慢だ。
忍耐力